

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 240

2014年

9～10月号

行 事 案 内

9月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 9月14日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前8時
案 内 猛暑が去って少しは凌ぎやすい気候になっているでしょう。鳥影が薄い時期ですがヨシゴイ、ゴイサギ、オオヨシキリ、セッカ等じっくり観察しましょう。
解 散 午前11時頃
担 当 小澤

集 合 手賀沼ピオトープ
午前8時30分(9月)
午前9時30分(10月)
案 内 9-10月のピオトープは7-8月と同様、ヨシ、穂の出たヒメガマ、マコモ等の抽水植物、葛等の蔓性植物に覆われ小鳥は探しにくくなりますが、ピオトープ、田、沼岸、大空の野鳥を探してみましよう。ツバメも未だ見られ、稲の刈り取り後の田で採食するチュウサギ、アマサギが見られるかもしれません。昨年は9月10種、10月14種の野鳥を観察しました。また、木の実もなり、夏秋の草の花も咲き、蝶、トンボ等の昆虫、蝉、蛙の鳴き声も聞こえます。秋の気配を感じながら探鳥をしてみましよう。
参加希望の方は下記までご連絡下さい。

解 散 午前10時30分(9月)
午前11時30分(10月)
担 当 鈴木静治
Tel : 080-3121-4757

10月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 10月12日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 秋のこちよい季節です。夏鳥も去り、そろそろ冬鳥が戻り始めます。手賀沼で冬鳥のコガモ、ミサゴが見られるかもしれません。秋空の下で、水鳥、猛禽類などを探してみましよう。
解 散 正午
担 当 船津

奥日光探鳥会

9月、10月ピオトープ調査

期 日 9月4日(木) 雨天延期
10月2日(木) 雨天延期

期 日 9月27日(土)、28日(日)
集 合 我孫子駅北口郵便局前 午前7時
案 内 昨年は5月に実施しましたが、今年は少し時期をずらしての開催と

なります。昨年は50種以上の鳥が認められましたが、今年はどうでしょう。夏鳥と冬鳥の入れ替わりの時期ですが、どうぞご期待ください。

交通 小型バス 定員 21 名
宿舎 「休暇村日光湯元」
費用 24,000 円 (昼食は各自負担)
持物 観察用具、雨具、防寒具
申込 木村稔まで
Tel/Fax : 04-7182-7958
担当 木村、六角

葛西臨海公園探鳥会

期日 10月18日(土) 雨天中止
集合 我孫子駅改札口 午前8時
案内 秋の葛西臨海公園探鳥会はここ十年ありませんでしたが、上の池(淡水池)、下ノ池(汽水池)、東なぎさ、西なぎさで水辺の鳥(シギチ、カモ、カモメ等)、桜並木、松林で山野の鳥を探してみましよう。東京湾の干潮 7:22、満潮 13:54 です。なお葛西臨海公園の水族館(有料)には、エトピリカ、ウミガラス、ペンギンがいますので、探鳥会解散後、観察されるのも良いかと思えます。

交通 我孫子 8:07(千代田線) 8:20 新松戸 8:26(武蔵野線、東京行き) 8:59 葛西臨海公園

持物 観察用具、雨具、昼食(葛西臨海公園駅の売店で購入可)

申込 鈴木静治まで
Tel : 080-3121-4757

担当 船津、鈴木(静)

第八回野鳥サロン

第八回野鳥サロンを、下記日程にて開催致します。
鳥にまつわる様々な話や、ツミの営巣から

巣立ちまでの話、鳥に関する一問一答などで楽しんで頂きたいと思います。今回は午後開催となりますので、時間を間違えぬ様ご注意願います。

多くの皆様の参加を、担当一同お待ちしております。

日時 9月19日(金) PM2:00~4:00
場所 我孫子北近隣センター 並木本館 第2・第3会議室
Tel : 04-7157-4517
(我孫子駅北口より徒歩7分)

テーマ 1.鳥あれこれ
2.ツミの観察記
3.鳥のいろいろ一問一答

会費 一人 300 円 (茶菓代ほか)

担当 小澤淳宏、金子雅幸、古出洋子

締切日 9月16日(火)

申込 金子雅幸まで
Tel : 04-7133-6944

ジャパンバードフェスティバル (JBF2014)全体

期日 11月1日(土)、2日(日)

会場 手賀沼親水広場(水の館周辺)、鳥博広場(鳥の博物館周辺)、アビスタ周辺、その他

案内 メイン会場は手賀沼親水広場です。光学器械関係は親水広場、学生・NPO 団体は鳥博広場、講演・作品展は水の館、アビスタなど。守る会の出展は鳥博広場のテント、噴水前の展望デッキ、観光船棧橋付近の受付の3か所になります。

広報 JBF 全体のイベントについては広報あびこ 10/16 号及び 11/1 号(予定)をご覧ください。

< 当会の JBF2014 参加内容 >

仮称「会員が撮った鳥の面白写真と当会の活動風景」(鳥博広場のテント) 新しくプロジェクターと写真展示で野鳥と当会の活動を紹介します。

「野鳥の塗り絵とパタパタ工作」(鳥博広場のテント)

野鳥の塗り絵とパタパタ工作(ミサゴ・カワセミ・マガモ)を親子で楽しんで頂きます。

「庭に鳥を呼ぶ」(鳥博広場のテント)

野鳥が好きな草木の実や餌を実物で紹介します。

湖畔バードウォッチング(噴水前の展望デッキ)

湖畔から望遠スコープを使用して手賀沼の鳥を見て楽しんで頂きます。

船上バードウォッチング(観光船棧橋付近の受付)

船上から手賀沼の鳥と風景を楽しんで頂きます。

<当会の前日会場設営と当日参加のお願い>

前日設営は10月31日(金)の13:30~鳥博広場の当会テントにご参集ください。その後、各担当の出展場所へ移動します。

11月1日(土)9:30~16:00 各出展場所へ

11月2日(日)9:30~15:00 各出展場所へ

会員の皆様の積極的なご参加とご協力をお待ちしています。

清里・軽井沢探鳥会

期 日 11月23日(日)、24日(月・祝)
集 合 我孫子駅北口ふれあい広場前
午前8時
案 内 例年2月の清里探鳥を今回は11月に開催します。
フクロウ、コミミヅク、ベニマシコ、

ハギマシコ、ニューナイスズメなど多数の鳥が期待できます。

宿のご主人が無料でガイドしてくれます。

翌日、早朝探鳥後、軽井沢野鳥の森へ移動し、ベニマシコ、イカル、アカゲラ、アオゲラなどを期待して探鳥します。

交 通 マイクロバス
定 員 20名(先着順です)
宿 舎 ねむのきペンション
山梨県北杜市高根町清里 3545
Tel : 0551-48-3395
費 用 20,000円程度
持 物 観察用具、雨具、防寒具、弁当、飲物、洗面用具、タオル、パジャマ
申 込 野口隆也まで(旅行傷害保険に入るため、生年月日をご連絡ください)
Tel : 04-7163-7898
担 当 小澤、野口(隆)

9月役員会案内

日 時	9月14日(日) 12:30~15:00 (開始時間に注意!)
場 所	水の館 3階研修室
議 題	JBF2014 出展について 会報241号掲載予定記事について 第9回「野鳥サロン」について 報告事項 ・関係団体関連報告 ・あびこ市民活動メッセ ・手賀沼アートウォーク その他(議題のある場合は野口隆也までご連絡ください)

行 事 報 告

6 月手賀沼探鳥会

調査日時 2014.6.8 雨のため中止
早すぎる梅雨入りのなか、なんとなく中
休み的な天気予報に期待しましたが、霧
雨がやまないので、集合者6名と相談し
て中止としました。

下見も傘持参でしたが、2年連続でタ
マンギを観察できたポイントは、今年は草
ぼうぼうで、すっかり様相が変わってしま
い、期待できなくなりました。

(担当) 松田幸保

<カウント班> 田中功、染谷迪夫

調査日時 2014.6.9 9:00 ~ 11:58
曇り時々雨 22

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	9	6	15
カガモ	2	1	3
カイツブリ	7	1	8
カウ	19	22	41
ゴイサギ	1	0	1
アサギ	2	0	2
オオバン	0	3	3
コチドリ	2	0	2
合計	42	33	75

<ピオトープ班> 猪爪敏夫、鈴木静治、間野
吉幸、金子雅幸、池田日出男、船津登

調査日時 2014.6.14 9:30 ~ 11:00

晴れ 弱風 31 ~ 34

梅雨入り以来の晴天、湿気が少ないため遠
く白い富士山も見える。抽水植物の茂るピオ
トープ、沼岸は野鳥観察しにくい。夏鳥のオ
オヨシキリの囀り、ハシボソガラス親子 6
羽の休む姿、水田での採食の情景が見られた。
観察した野鳥 12 種 46 羽。他に木の花実 7
種、野草の花 8 種が観察でき、蝶 5 種、蜻
蛉 2 種、蜂 3 種、バッタ 1 種、甲虫 1 種、
カメムシ 1 種、蛙 1 種も観察出来ました。

<認めた鳥> コブハクチョウ、カルガモ、カ
ワウ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ツバ
メ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、ムクドリ、ス

ズメ、カワラヒワ、ホオジロ 計 12 種

7 月手賀沼探鳥会

調査日時 2014.7.13 8:15 ~ 11:15
曇り 弱風 29

台風 8 号の“台風一過”ながら曇天の上、
高温多湿の定例探鳥会。加えてサマータイム
導入の初回。オオヨシキリの囀り、ヨシゴイ
の飛翔、オオバンの幼鳥も見られ、手賀沼の
初夏を味わえました。カンムリカイツブリの
夏羽にはびっくりしました。

<認めた鳥> キジ、コブハクチョウ、カルガ
モ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジ
バト、カワウ、ヨシゴイ、アオサギ、ダイサ
ギ、チュウサギ、コサギ、バン、オオバン、
コチドリ、トビ、コゲラ、ハヤブサ、ハシボ
ソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、
ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、
ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒ
ワ、ホオジロ 計 31 種 番外 カワラバト

<探鳥班> 大久保陸夫、仲澤成二、浅野利幸、
相良直己、畠中暁美、石井俊子、小林秀美、
金子幸子、類地佑子、川越久枝、佐々木隆、
桑森亮、船津登、野倉元雄、小澤淳宏、松田
幸保、渡辺俊文、佐藤弘美、千葉洋、百瀬喬、
西嶋昭生、野口隆也、北崎正典、間野吉幸、
田丸喜昭、榎本右、小坂忠久、常盤孝義、古
出洋子、中垣啓、野口紀子、石渡成紀、藤川
敏彦、阿保進、六角昭男、玉井修一郎、荒井
みどり、松本葉子 (担当) 松本勝英

計 39 名

<カウント班> 木村稔、田中功、染谷迪夫

調査日時 2014.7.14 8:20 ~ 10:56
曇り 26

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	8	0	8
カガモ	3	12	15
カイツブリ	8	5	13
カウ	53	41	94
アサギ	1	0	1

コサ	1	2	3
ハン	1	0	1
オハン	2	0	2
コドリ	2	0	2
合計	79	60	139

<ピオトープ班> 鈴木静治、間野吉幸、金子雅幸、池田日出男、蒲田知子、船津登、百瀬喬

調査日時 2014.7.3 9:30~11:00
 晴れ 微風 29~33

梅雨の合間、晴れて蒸し暑い。微風あるが、沼に水鳥は殆ど見えず。ピオトープは草に覆われ、鳥が飛び出すか鳴かないと判らない。田では畦で休むキジ、ハシボソガラスの家族、カルガモ、上空で囀るセッカ、上空高く滑空するトビが観察でき、ピオトープの高木の頂上で囀るホオジロ、葦の茂みで囀るオオヨシキリが認められました。観察した野鳥 15 種 67 羽。他に木の花実 13 種、野草の花 15 種が観察でき、蝶 8 種、蜻蛉 4 種、蜂 2 種、バッタ 5 種、甲虫 3 種、カマキリ 1 種、クモ 3 種、蛙 2 種も観察出来ました。

<認めた鳥> キジ、コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、トビ、ハシボソガラス、ツバメ、オオヨシキリ、セッカ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ 計 15 種

笹川・印旛沼探鳥会

6月15日

上半身だけでもサンカノゴイに感激

玉井修一郎

このところ第二の勤務先の業務、また双子の孫の育爺として忙しく、久しぶりの探鳥会参加となりました。梅雨の晴れ間で蒸し暑い日でしたが、21 名が 5 台の車に分乗し、午前 8 時我孫子駅北口を出発しました。ちょうど当日 10 時から日本とコートジボワールのサッカーの試合があったせいか、利根川水郷ラインは交通量が少なく、順調に印旛沼に到着しました（さらに 1 名が現地合流）。

印旛沼はサンカノゴイが観察出来る貴重な場所と聞いていましたが、既に土手の上にスコープを構えた観察者が 20 名ほど集まっ

ていました。いろいろ幹事さんはじめ皆でサンカノゴイを探したのですが、なかなか見つからないところ、やっと田んぼの中で首を伸ばしているところを発見、遠目ながら上半身がはっきり見えた時には感激しました。田んぼから土手のうえを飛んで葦原に潜り込むところも見えたのですが、残念ながら次回の探鳥会までお預けとなりました。その他お目当てのヨシゴイにもお目にかかることが出来ました。

次の探鳥ポイントの利根川沿いの笹川に到着、堤防での昼食の後で探鳥を開始しました。目の前に初夏の青々とした葦原が開け、鳥のさえずりが行きかい騒がしいほどです。国の天然記念物で絶滅危惧種のジウジウクとさえずり飛翔するオオセッカ、頭の黒いコジュリン、赤い口をあげ空に鳴いているオオヨシキリなどこの季節しか見ることが出来ない鳥でした。その他、セッカやコヨシキリも観察でき、遠くの木にはウグイスもとまっていた。ここ笹川にはオオセッカやコジュリン目当てで、わざわざ外国からの観察者も多いと聞きました。

蒸し暑くてそろそろ疲れてきたところで帰路につき、川の駅「水の郷さわら」で鳥合わせをし、道の駅での買い物を済ませて、帰路の渋滞も無く、大満足で帰宅しました。

最後になりますが、幹事の野口さん、鈴木さん、安全運転に徹していただいた百瀬さん、同乗の際色々教えていただいた吉田さん、野倉さん、楽しい一日をどうもありがとうございました。

【幹事報告】

梅雨の合間の晴天に恵まれ印旛沼、笹川の探鳥をしました。印旛沼の目玉は千葉県ではここで数羽繁殖するサンカノゴイ、笹川の目玉は日本では青森県と利根川の周辺に局所的に繁殖し、日本に千羽しかいない絶滅危惧種のオオセッカです。どちらの場所も日陰が無く、トイレもない中、参加者は我慢して観察したおかげで、印旛沼ではオオヨシキリの囀り、ヨシゴイが葦原上を飛ぶ様子、サンカノゴイが水田で餌を探す様子、クロハラアジサシの上空より沼水面に急降下し餌獲りの様子等を観察しました。笹川では葦より飛び上がり放物線を描き降りるオオセッカの囀り飛翔、枯れた葦にとまる頭の黒い夏羽のコ

ジュリンの囀り、可愛い顔のコヨシキリの囀り、ヒッヒツチャツチャと囀るセッカ等を観察しました。なお当日は安食駅近く富士見橋のコンビニ、東庄の諏訪神社でトイレ休憩をし、佐原の川の駅で鳥合わせをし、解散しました。解散後各々、道の駅でお土産を買い求め帰路につきました。

<認めた鳥>キジ、コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、サンカノゴイ、ヨシゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ホトトギス、クロハラアジサシ、トビ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、オオセッカ、オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、コジュリン 計29種 番外 カワラバト

<参加者>間野吉幸、大久保陸夫、金子雅幸、中野久夫、船津登、相良直己、渡辺俊文、蒲田知子、桑森亮、吉田隆行、古出洋子、青木典子、百瀬喬、野倉元雄、小林博之、玉井修一郎、中根忠、中根洋子、野口洋子、藤川敏彦(幹事)鈴木静治、野口隆也 計22名

新入会員オリエンテーション

6月29日

本年度の当会新入会員オリエンテーションが8名の新入会員を含め19名の会員が参加し開催されました。

当日は野口副会長の司会で、下記の内容で進められ、金子担当幹事の自身の経験に裏打ちされた探鳥時の注意点や探鳥のヒントの話、これまでの当会が訪れた探鳥地や出会った鳥の情報・写真、今年度のこれからの探鳥計画などの紹介がありました。

参加の会員は、興味深い話の数々に耳を傾けていました。

日時 6月29日(日) 10:00~12:00

会場 手賀沼親水広場水の館3階研修室

議事次第

プレリユード 野鳥スライド・ショー放映

1) 歓迎の挨拶 間野会長
当会運営体制(組織、役員、事務局)紹介

2) 当会の紹介 担当幹事 相良
当会の他では得られない特徴/楽しみ
当会の名人たち

当会の年間活動

これまでの探鳥地と出会った鳥たち
こんな時のコンタクト先

3) 先達に聴く 探鳥の楽しみとヒント
担当幹事 金子(雅)

探鳥を楽しむための心構えと準備
(探鳥会参加の準備、ルール、マナーなど)

鳥を素早く見つけるヒント

(鳥の見つけ方、見分け方のヒント)

探鳥の楽しみ方

(探鳥、探鳥会参加の楽しみ方)

4) 今後の活動予定と参加の案内 野口副会長

5) 質疑応答&懇談 司会 野口副会長
閉会 古出副会長

<参加者>新入会員:阿保進、阿保国子、荒井みどり、石井俊子、仲澤成二、野倉元雄、百瀬喬、渡邊俊文 8名

一般会員/役員/事務局:肥後邦彦、宮下三禮、小坂忠久、間野吉幸、野口隆也、古出洋子、桑森亮、金子雅幸、野口紀子、蒲田知子、相良直己 11名

参加された新入会員からは、以下のコメントが寄せられました。

・オリエンテーションで会の事が大変良く理解できました。鳥の名前を早く覚えたいと思います。

・分かりやすく説明して頂き、活動の様子や今後の活動予定が良く分かりました。興味深々と云うものも多く、魅力一杯です。

・野鳥の声が聞き分けられなかったが、アドバイスをいただいたので勉強したい。

・探鳥会の心得が参考になった。

・会の活動に参加すれば、探鳥会で出会った鳥をさらに70種位増やせそうで楽しみである。

・野鳥サロンを是非続けて欲しい。

・鳥の声を覚えて楽しむ方法を教えて頂いて参考になった。

・白樺峠にも是非探鳥に行きたい。また、企画して欲しい。

(担当) 相良、金子(雅)、野口(紀)

映写会

7月27日

本年度の映写会が、7月27日に我孫子北近隣センター(並木本館)1階 多目的ホール

にて、34名の会員の参加を得て成功裏に開催されました。

今年度は、例年に無い多数(14名)の発表者に写真、動画、スライド・ショーの力作をご披露いただきました。

発表者の皆様、素晴らしい作品の数々と、効率的な進行にご協力いただきありがとうございました。

<発表者と発表タイトル>(敬称略)

浅野利幸 [台湾探鳥会の鳥、舩倉島の鳥
この一年の珍しい鳥たち]

吉田隆行 [2014年に会った鳥]

桑森 亮 [2014年に会った鳥たち]

野口隆也 [若葉青葉の頃に会った鳥 &
台湾の鳥]

古賀嗣朗 [スリランカで撮った野鳥]

相良直己 [Bye! エジプトガン]

池田日出男 [北海道、オーストラリア、台湾で会った鳥たち]

大久保陸夫 [舩倉島、台湾等で会った鳥たち]

百瀬 喬 [ヤマシギの採餌シーンとサギの採餌シーン]

田中 功 [台湾・舩倉島・八郎潟(大潟村)で会った鳥たち]

仲澤成二 [舩倉島の野鳥の写真]

渡邊俊文 [今日までに会った野鳥たち]

丸嶋紀夫 [2013年~2014年の初撮りの野鳥]

松田幸保 [タマシギのイクメン日記]

<参加者>青木典子、浅野利幸、池田日出男、石渡成紀、大久保陸夫、小澤淳宏、金子雅幸、金子智恵子、北崎正典、桑森亮、古出洋子、古賀嗣朗、小玉文夫、相良直己、佐藤弘美、田中功、田中恒雄、玉井修一郎、仲澤成二、野口隆也、野口紀子、橋本了次、畠中暁美、肥後邦彦、弘實さと子、松下勝子、松田幸保、間野吉幸、丸嶋紀夫、百瀬喬、吉田隆行、類地佑子、六角昭男、渡辺俊文 計34名

懇 親 会

7月27日

昨年同様、2回目の「ランチ懇親会」が我孫子駅北口「はな膳」に於いて7月27日、

12:30より開催されました。午前の「映写会」で多くの皆様方の力作を堪能した後、場所を移動しての懇親会でした。

やはり昼間開催の意味があったのでしょうか?女性陣の参加14名、総勢36名で楽しいひと時を過ごす事が出来ました。皆さまから一言ずつコメントをいただきましたが鳥の話、鳥情報など興味深いお話を伺う事も出来ました。

お互いの親睦を深め、野鳥を守る会の更なる発展に必ずや役に立つ行事だと思えました。担当幹事が至らなく行き届かなかった点多々あった事と思いますが、ご容赦のほどお願い致します。そして皆様方のご協力を心から感謝致します。

<参加者>間野吉幸、金子雅幸、金子智恵子、野口隆也、野口洋子、六角昭男、桑森亮、青木典子、松田幸保、古出洋子、池田日出男、弘實さと子、木村稔、吉田隆行、大久保陸夫、相良直己、田中功、仲澤成二、染谷迪夫、小澤淳宏、浅野利幸、金子幸子、川越久枝、小玉文夫、小玉信子、松本勝英、松本葉子、渡辺俊文、類地佑子、佐藤弘美、北崎正典、石渡成紀、百瀬喬 (担当)野口紀子、松下勝子、畠中暁美 計36名

第六回 野鳥サロン

5月27日

5月27日(火)野鳥サロンが開催されました。前夜の激しい風雨も収まり、ひと安心。お菓子は殊のほか上物が安く手に入り、ホクホク気分近隣センター並木本館へ。畠中さんの万葉集の中の鳥、ホトトギスの話に引き込まれ、松田さんのビデオでは、カラスやカモメの攻撃をかわし、狩りをするミサゴの映像に瞬きもせず釘付けでした。「ハア~!」「ヘエ~!」「ホオ~!」のうちに素晴らしく楽しい時間が終了しました。

<参加者>間野吉幸、金子雅幸、千葉洋、小林博之、関口小夜子、野口隆也、青木典子、金子幸子、類地佑子、古出洋子、石井俊子、小澤淳宏、染谷迪夫、野口紀子 (担当)松田幸保、畠中暁美、船津登、松下勝子 計18名

7月役員会報告

ホタルの夕べ

8月3日

日時 平成26年8月3日(日)
 曇り 30 湿度 やや高
 集合 東我孫子駅前 午後7時
 (観察期間午後7時20分~8時30分)
 観察場所 我孫子市岡発戸・都部谷津ミュージアム(主にホタル・アカガエルの里付近)

報告

本日、認められたヘイケボタルの数188頭、去年の125頭から大幅に増えました。素晴らしい!今日は、ややむして、晴れて微風があり、空には三日月がかかって、やや明るく、ホタルの観賞にまあまあの日でした。これで6年続けて3桁のホタルが観察されましたが、これは、谷津の保全、整備をされているボランティアの方々が、維持・管理を続けてくれているたまものと感謝しています。田んぼの青々とした稲の上、斜面林の木立の間、草むらのかげ、湿地、ヨシ原をゆっくりと舞い、点滅する幻想的な青い光りは、子どもから大人まで、癒しと楽しいひと時を与えてくれます。何時までもこの光景が続くように祈りたい。ボランティアの方々と谷津に感謝!なお、この行事は、我孫子野鳥を守る会と我孫子市鳥の博物館友の会の共催で行われました。

<参加者> 矢野達志、池本加代子、金子雅幸、金子智恵子、金子裕一、金子恵、金子ともや、金子玲史、金子直美、金子あいり、金子さあり、野口隆也、野口洋子、佐々木馨子、野々下瑞希、北村章子、上野拓、野口一紀、天野暁子、天野枚子、天野かな枝、天野佑香、坂本明、坂本千加子、白木原国雄、白木原美紀、森恵子、青木典子、森拓朗、森扶由子、森航太郎、長田俊人、長田幸子、伴野茂樹、山岸和博、山岸尚子、稲澤君夫、小玉文夫、小玉信子、横堀香子、横堀祐大、横堀いずみ、野坂由香里、野坂凜、野坂朋葉、栗原秀夫(担当) 染谷迪夫、木村稔 計48名

日時 平成26年7月13日(日)
 12:30~16:00

場所 水の館 3階研修室
 1. JBF2014 出展について
 JBF2014 は昨年同様「親水広場」を中心に11/1(土)、2(日)に開催されます。

グループ	担当者(下線:リーダー)
ブース1(鳥博駐車場テント) 仮称「会員が撮った鳥の面白写真と当会の活動風景」 写真展示とプロジェクターでのプレゼン	相良、金子(雅)、田中(恒)、北崎、佐々木
ブース2(鳥博駐車場テント) 「野鳥の塗り絵とパタパタ塗り絵」 塗り絵の体験・指導	野口(紀)、古出、金子(幸)、蒲田、類地
ブース3(鳥博駐車場テント) 「庭に鳥を呼ぶ」 鳥の餌になる草本類の展示と説明	鈴木、染谷、小林(寿)
「湖畔バードウォッチング」(河童噴水前テント) 望遠スコープ+三脚8セットを用意し、探鳥体験と観察した鳥の写真展示	六角、小玉、船津、小澤、吉田、田丸、大久保、川上 他
「船上バードウォッチング」(手賀沼漁協側テント) 1時間程の手賀沼の船上探鳥体験クルーズ 11/1:10:30/12:30/14:30(3便) 11/2:10:30/12:30/14:00(3便)	桑森、田中(功)、松本、松下、石渡、猪爪 他
「事務局」(鳥博駐車場テント) 渉外、PR、パンフ、展示備品、写真、その他庶務	野口(隆)、金子(雅)、北崎

- * スタッフとしてご協力いただける会員の皆さんは、各グループのリーダー（下線者）にご連絡下さい。多くの参加、ご協力をお待ちしています。
- * 各グループリーダーは、次回役員会（9/14）で出展内容骨子を説明します。
2. あびこ市民活動メッセ出展について
 昨年の我孫子市民活動フェスタに代わり「あびこ市民活動メッセ」が8/20(水),21(木)に「けやきプラザ」で開催され、当会からも参加・出展することを決定しました。
 3. 会報 240 号掲載予定記事について
 会報 240 号の掲載記事について、資料に基づき検討し、決定しました。
 4. 26 年度第 1 四半期会計報告について
 今年度第 1 四半期の会計報告を異議なく了承しました。
 5. 会員アンケートについて
 会員の皆さんが当会の活動にどのように感じ、何を期待しているのかを把握し、今後の活動に活かしていくため、会員アンケートを実施することとし、その方法、内容等について検討し、決定しました。次号会報（9, 10 月号）に同封郵送、若しくはメーリングリストによるメール送信によりアンケートが配信されますので、皆さんの忌憚のないご意見をお寄せ下さい。
 6. 今年度以降の写真集について
 従来の写真集を当会の活動記録として拡大発展させ、暦年で DVD に整理することを決定しました。この DVD は毎年の定期総会までに作成し、ご希望の方には実費 相当をご負担いただき、配布できる予定です。
 7. 第 8 回「野鳥サロン」について
 詳細が決定次第、周知される予定です。
 8. 定例探鳥会での運転者への 100 円支払いについて
 （実施内容については、本号の「会からのお知らせ」に別掲載しております。）
 9. 報告事項、その他
 以下の事項が報告されました。
 2014 手賀沼基金に当会から鳥写真リーフレット作成を申請し、承認。4 種類の写真リーフレットを 3,000 ~ 4,000 枚程度作成し、今後の啓発活動に活用。
 手賀沼のハスの刈り取り作業に参加。
 手賀沼流域フォーラム地域イベント「親子ふれあい探鳥会」の広報対応状況。7/5(土)に手賀沼学会総会が開催され、同会の活動はこの総会をもって解散。
 NHK への取材協力と放送概要に関する報告。（放映内容については、本号の「トピックス」に別掲載しております。）
 間野会長の講演等の実施（8/22 千葉県教育研究会柏支部、9/12 我孫子第四小学校「昆虫・生物クラブ」）。
 2014 年度新入会員オリエンテーションの実施報告。
 芋煮会用焚き木廃材の手当て、調達業者の変更。
 定例手賀沼探鳥会の実績報告先の再確認（事務局、会報担当、HP 担当、水の館情報連絡窓口）。

以上

布佐周辺の夏から秋の鳥見

ヨシゴイ、チュウサギ、アマサギ、ゴイサギ

鈴木静治

1. ヨシゴイ(準絶滅危惧種)：シギチの春の渡りが終わり 6 月になりますと、手賀川の浅間橋周辺の岸、ヒメガマの生える中州にヨシゴイの水面すれすれに飛ぶ姿が見えるようになります。ヨシゴイが岸から飛び出すのに気が付いたのは 2008-2010 年頃です。はじめはゴイサギかササゴイとと思っていましたが、図鑑で調べてヨシゴイと判りました。2011 年に「四季の手賀沼周辺散歩」で浅間橋周辺の取材をすることになりましたが、7 月は今まで頻りに囀っていたオオヨシキリ、ヒバリ、キジ、カイツブリの声も少なくなり、夏の記事を書くのに困って朝夕浅間橋に頻りに通いました。たまたまこの 2011 年は中州の上を飛ぶヨシゴイが多く見られ、1 ヶ月後の 7 月になると未だ飛べない羽毛の生えた幼鳥が中州の端のヒメガマにとまり親鳥に餌をねだるピーピー鳴く様子が見られるようになりました。1km ある中洲に沿った堤防上の道より数えてみると幼鳥だけでも 10 羽ほど見られました。8 月中下旬になるとヨシゴイは見られなくなりました。翌 2012 年以降浅間橋周辺ではヨシゴイが少なくなり数羽程度しか飛ぶ姿を見ることが出来ないようになりました。しかし、手賀沼のフィッシングセンター前の広いヒメガマの茂みより 2 羽揃って飛び立つのを見ることができました。また、手賀沼のヒドリ橋、ピオトープ周辺でも時々見ることがありますので、手賀川、手賀沼の人が近づけないヒメガマの茂みに広く分布し営巣しているのではないかと思います。ヨシゴイといえば、夏、東南アジアより飛来し、他の白いサギが少ない時期に姿をひそかに見せ、飛ぶと風切が黒く、日本のサギでは最小で、忍者のようにヒメガマの茎にとまり、ヒメガマの上部に葉を上手に組み合わせ巣作り子育てし、他の白いサギが姿を見せる夏の終わりには居なくなるといったイメージです。「野の鳥の生態(仁部富之助 1979 年大修館書店)」を見ていましたところ 1935 年頃の話ですが「オオヨシゴイの奇習」の項でヨシゴイについて興味深い記載がありましたので以下に紹介します。「鳴き声」はオーオーとゆっくりとした低い声で鳴きます。私は初めて夕方聞いた時は犬でも鳴いていると思いましたが、ヨシゴイがいつもいる場所から聞こえるためヨシゴイの鳴き声と気が付きました。これがヨシゴイの囀りです。ウシガエルを弱くしたような怪しい鳴き声です。ヨシゴイの「至妙なる自衛法」は丈の短い草地では逃げ足が速いのですが、中州のようなヒメガマの茂みでは例えばタカが上空を飛ぶ時、ヒメガマにとまったまま、敵と向かい合います。敵が近づくと直立不動の姿勢、棒を飲んだように嘴も胴体も脚もできるだけ伸ばして立つと、胸の縦斑が立ち並ぶヒメガマの茎と調和するのですっかり環境へ溶け込んでしまいます。私も見たことがありますヨシゴイがこんなに背が高くなるかとビックリするぐらい長くなります。まさに擬態的動作で、まだこれに満足せず、敵が右から左に動く時それと速度を合わせて、常に相手と向かい合うようにします。風でヒメガマが揺れるときそれに合わせ体を揺すります。まさに忍者のような鳥です。また「雛の敵対法」も凄い。巣に近づくとまだ飛べない雛が射るような目で相手を見、凄い剣幕、嘴でつきかかる。更にじりじり後退しながら大きな口を開き、食物のひとかたまりを吐き出します。嘔吐物から発散する悪臭は敵を撃退するに十分とのこと。また、「捕虜同士の格闘」では、養殖場の魚を獲るため捕まえられたヨシゴイを金網籠に数羽押し込めたところ、6-7 羽のヨシゴイが脚を、頸を、翼を、頭を組合い、つかみ合い、嘴と嘴をかみ合い、もつれにもつれてひとかたまりになっていました。籠の戸を開けてやっても逃げないので、籠を逆さにすると、もつれたままドスンと落ちたのですが、それでも離れも逃げもしない。仕方なしに棒で徐々にほぐすと、夢でも覚めたようにあたふたと 1 羽 2 羽と飛び去ります。このようにヨシゴイは集団をつくらずに、個々の個体で独立して暮らすようです。同じ東南アジアから日本にわたり繁殖するサギの仲間でも、後述のチュウサギ、アマサギが大きな集団を

つくり暮らすのと対照的です。渡りも集団で無く、単独か又は家族単位でしょう。カッコウ、ホトトギス等の性格に似ているところがあるようです。

2. チュウサギ(準絶滅危惧種)、アマサギ：共に布佐周辺には5月の連休前に東南アジアから渡ってきて田植え前の田に姿を現しますが、あまり長く滞在しません。布佐周辺にはサギの繁殖のためのコロニーが無いためでしょう。「平成25年千葉県内のサギのコロニーの位置とその規模・種構成」(上田孝寿、ホオジロ2013年10月号)によれば、我孫子近くでは野田市、印西市吉田、香取市等にコロニーがありますが、遠いようです。8月末の稲の刈り入れ時となると、チュウサギ、アマサギの群れが現れるようになります。稲の刈り取り、田起こし後の昆虫、土の中の虫を食べるためトラクターの後について回るようになります。また8月末から10月の初めにチュウサギ主体にして、アマサギ、コサギ、ダイサギの白サギの罫が手賀川の中州、手賀沼のヒメガマの茂みにできます。2011年9月から10月初め浅間橋周辺の手賀川の中州に罫ができ、夕方、見に行くと罫の中州に数百の白サギが舞い降りる様子は壮観な眺めでした。2012年8月末、私は前年と同じ中洲に罫が出来ると思っていましたが、一向に姿を見せません。よくよく探してみると、2km離れた下手賀川の葎原に罫が出来ていました。しかし、同じ場所に2週間後の9月中旬に行ってみると白サギは1羽もいません。浅間橋近くの中洲に罫が移っていました。更に罫が曙橋へ移り、10月初旬には手賀沼のフィッシングセンター近くのヒメガマの茂みへ移り、10月中旬には手賀沼からいなくなりました。

また2013年の罫は下手賀沼と手賀沼のフィッシングセンター前のヒメガマの茂みでした。このように、秋の罫は転々と移り、最後は渡りになります。今年2014年は罫が手賀川、手賀沼、下手賀沼、下手賀川の何処に作られどのように移動するのでしょうか。夕暮れ時、観察してみるのも面白いと思います。なお、罫からの朝の飛び立ちは日の出前の薄明かり時には完全に終わりますので、観察は真っ暗なうちから観察しないと難しいのですが、夕方の罫入りは未だ日没前から始まり日没後まで1~2時間続きますので観察は容易です。なお、アマサギは秋の朝方、手賀川の浅間橋の川中に狩猟用の偽装船が年中係留してありますが、この上に数羽から多いときには数十羽とまっています。この頃はチュウサギが多く川の中州、田にいますので、アマサギと判りにくいのですが、夏羽の亜麻色をした個体がいなか見えます。1羽でも僅かの亜麻色を見れば、他のものは白色型(冬羽)であることが判ります。嘴が黄色で短く、脚は黒く、顔は丸顔で、コサギ、チュウサギより小さいのでよく見れば判ります。アマサギの群の中にチュウサギ、コサギ、ダイサギが混じることもあります。東南アジア等で水牛の背に乗り虫獲りをする様子はのどかな風景で好きな光景です。アマサギは英名Cattle Egretです。アマサギもチュウサギが居なくなるころに見られなくなります。

3. ゴイサギ：チュウサギの罫探し、観察に行きますと、帰りは暗くなりますが、頭上でゴァー又はクワァと鳴かれると、ゴイサギが飛んでいるのが判ります。ゴイサギは日中、林で休み、夕方から水辺で魚、蛙、ザリガニ等を獲るようです。夜も狩りをしているでしょう。英名はNight Heronです。日本では後醍醐天皇の勅命に従い、素直に捕まり「五位」の位を授けられたといわれています。鳥の中では一番上の位です。朝、浅間橋周辺の中州、下手賀川の茂みのヒメガマの水辺の茎にとまり、多くはホシゴイ(幼鳥)ですが、時々白っぽく目の赤い成鳥も見られます。数羽から多い時で数十羽見られる時もあります。時々十数羽のゴイサギの飛翔に出会うこともあります。年中見られますが、夏から秋、初冬に多く見られるようです。なお、ゴイサギはヨシゴイに比べ大きいので、ヒメガマの茎にとまるとヒメガマが倒れます。ヨシゴイの場合はヒメガマが倒れません。

以上夏鳥として布佐周辺に飛来する、ヨシゴイ、チュウサギ、アマサギ、留鳥のゴイサギについて記載してみました。今年もチュウサギの罫探しをしようと思っています。また、ダイサギ、チュウダイサギ、コサギは夏に比べ冬少なくなるようです。このあたりの事情も今後調べてみたいと思っています。

大津川野鳥歳時記(1)

相良直己

1) プロローグ

私が大津川を散策するようになったのは何時からであったでしょうか？
1987年に転勤で名古屋より移り住み、当時の沼南町大津ヶ丘に居を定めてみたものの外出する際は車で遠出か東京方面へ、地元の手賀沼や大津川に目を向けることは全くない生活を送っていました。

20年が経ち、2007年か2008年の頃です。日頃成人病の治療を頂いている主治医より、健康のために歩くように進められ、万歩計を手に取り歩き始めました。毎日、1万歩を目標に手に入れたばかりの iPod を胸に、音楽を聴きながら週末は中之橋から手賀沼まで整備された大津川の土手を歩きます。イヤホンを耳にしているため鳥の声は全く耳に入ってきません。ある日、見飽きた風景から気分転換で大津川を上流に遡ってみることにしました。当時は中之橋の架け替え工事が終わって間もない頃で、権現橋より上流の方はまだ河川改修工事は行われておらず、川幅3~5m程度の小川が曲がりくねって蛇行し、川の中には岩や石がごろごろしており、河川敷には処々に繁みや水溜まりもあり、土手も未整備の状況でした。

流れの早い所や、深い瀬になっている所もあり、水溜まりにはコガモやオオバンが、瀬になっているところにはマガモやオナガガモが、そして川中の岩の上にはアカミミガメと並んで、カルガモ、ヒドリガモ、カワウが場所を取り合っていました。繁みの影より川を眺め、様々な鳥に目を奪われ、次はカメラを持って来てみたいとなりました。背丈ほどある草藪をかき分け歩くため、運動にはならなくなりましたが、こうして私の探鳥は始まりました。

その内、カワセミ、モズ、ジョウビタキなどにも出会い、その華やかな羽色に魅せられ、雨上がりの夕方に偶然クイナに出くわし嬉しくもなりました。川面だけでなく、流域の田畑にまで視野が広がることによりサギ類やシギチにも出会い、深みにはまり現在に至ることになります。

そんな、大津川も2007年から始まった河川改修工事が、今では、中之橋より芦川橋まで実施され、川の様子は全く変わってしまいました。川幅が広がり、流れはまっすぐになり、川底も平らに整備され、川中の岩や石は取り除かれ、土手は高く、広く整備されました。まさに、一級河川に相応しい川となりました。以前はあった、大津川の氾濫により流域が浸水被害を受けることもほとんど無くなるでしょう。

護岸工事をできるだけ減らし、動植物に配慮し、自然な水際を目指す工法とのことですが、歩き易くはなりましたが、残念ながら鳥たちの様相は、かなり変わってしまいました。深みの瀬が無くなった故か、今、大津川中流域でマガモ、オナガガモを見ることは全くありません。ヒドリガモの数も減りました。

それでも、大津川では、四季ごとに様々な鳥たちが私達を楽しませてくれます。

大津川と四季の野鳥たちに関して、会員の皆様にご紹介してみたいと思い、これから数回にわたり、会報に雑文を寄せてみたいと思います。

2) 大津川に関して

大津川は鎌ヶ谷市の白幡橋辺りが源流で、東武野田線にほぼ並行して流れ、手賀沼に注いでいます。以前は柏市と東葛飾郡沼南町の境界となっていました。大津川の歴史は古く、真偽のほどは分かりませんが、源平の時代に遡り、将門記に平将門が手賀沼を琵琶湖に例えて、この川の河口を大井津と名付け、そこから大津川となったと言われています。

一級水系利根川水系に属する支流で、全長7.9kmの一級河川です。
大津川には、全部で16の橋が架かっています。手賀沼河口近くのひどり橋に始まり、大津川橋、二子橋、国道16号線上の上沼橋、中之橋、宮根橋、権現橋、下橋、宮下橋、芦川橋、中島橋、関根橋、高柳橋、かにうち橋、山王橋、白

幡橋です。

このうち、私は中之橋より手賀沼河口までを下流域、芦川橋～中之橋までを中流域、芦川橋より上流を上流域と呼んでいます。

中之橋より下流の下流域は、昔からマブナ釣りで関東では有名で、現在でも朝早くより釣り人の姿を多く見かけます。また、兩岸の土手は整備され、殆ど舗装されており、ジョギングやサイクリングを楽しむ人を多く見かけます。

中流域も今では河川改修工事も終わり、大きく変わってしまいました。しかしながら、中流域では河原にヨシが茂り、土手も未舗装で、時には背丈ほど草も伸び、まだ自然が多く残されています。

芦川橋より上流の上流地域はほとんど整備されておらず、散策には向きません。

3) 大津川の自然

手賀沼河口近くのひどり橋付近では毎年コブハクチョウの営巣が見られ可愛いヒナを見ることができます。また、オオバン、バン、カイツブリ、カワウも頻繁に見ることができ、秋から冬にかけては、コガモ、モズ、ホオジロ等も良く見えます。

鳥が最も多く見られるのは中之橋周辺であり、餌付けをする人の故かコブハクチョウは20羽くらいの群れで生息しています。冬季にはその群れは最近では30羽以上になります。オオバンも100羽位の群れとなり、コガモも数10羽の群れで観られます。中之橋下の中州には時折カワウが日光浴し、周辺ではアオサギ、ダイサギ、コサギが餌を採っています。春にはカルガモのお母さんは10羽近いヒナを従え、一列になって泳いでいます。釣師が去った時刻以降になると茂みに隠れていた赤い額と黄色い嘴のバンが顔を出します。

さらに上流に向かって進むと、晩秋から冬季にはホオジロ、アオジ、ツグミなども毎回見ることができます。春には河川敷一帯が一面、黄色一色の菜の花畑に変わり、モンシロチョウやモンキチョウが舞っています。河原の繁みからはウグイスの声が聞こえてきます。夏季にはオオヨシキリの賑やかな囀りが聞こえ、ツバメが飛び交っています。一年を通してカワセミやモズも良く見かけます。土手を歩くと足元からキジが飛び立ちます。

ある年、大津川の土手を黄色い毛色の小動物が鳥を啜って走っています。綺麗な冬毛のホンデンがバンを啜って走って行きました。あまりの素早さにカメラのピントを合わせることができずピンボケの写真となったのは残念でした。その数年後には同じ場所で今度は夏毛の褐色のテンを見かけました。また、大津川の土手にはネズミやモグラも多く生息しているため、年に数回はアオダイショウやシマヘビなどにも出会います。

一昨年の冬、中流域の河原で火災がありました。消防車が4～5台駆けつけ消火に当たりました。鎮火後、大津川の土手に行ってみますと、火災に会った中州の土手に沢山の小動物の巣穴がありました。この土手にはかつてカワセミが営巣しカワセミ堤と呼ばれていたそうです。カワセミ君、そして、テンやモグラやヘビ達、無事に逃げることができたのかしら…。でも、その後、黒く焼けた地肌と燃え残った木々がお気に召したのか、次々とジョウビタキ、シロハラ、シメがやってきました。昨年下流域の河原の火災後にも、同様にジョウビタキ、シロハラ、ツグミを見ることができました。焼け跡は恐らく採餌に都合が良いのだと思います。

川中で跳ねるコイやフナ、そして土手のトカゲ、コウモリ、クモ、バッタ、セミ、トンボ、チョウも季節毎に大津川を賑わせてくれます。まだまだ自然の豊かな大津川です。でも、一方で夏季の今は、繁ったヨシに隠されていますが、冬枯れの季節になると川岸に目立つゴミのヤマ、川に投げ捨てられた粗大ゴミ、ポリ袋、・・・川を汚す奴は誰だ？・・・。

大津川の生き物たちにとって、何時までも、もっと住みよい楽園であり続けることを祈ら



ずには居られません。次回は『大津川野鳥歳時記 <春>』をお届けしたいと思います。

鳥 だ よ り

- | | |
|--|--|
| 5.22 [浅間橋] キョウジ ヨシキ (22) 稲の植わる畦にとまる(終認) 鈴木静治 | 5.28 [片山(手賀の丘公園)] 牝 舩 (1) 竹林の奥でさえずる 船津登 |
| 5.22 [浅間橋] ムグロ (1) 稲の植わる畦にとまる(終認) 鈴木静治 | 5.28 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ (3) 船津登 |
| 5.23 [北新田] ホトギス (1) 河川敷で鳴き声 中野久夫 | 5.29 [発作] チョウゲンボウ (1) 上空を飛ぶ 鈴木静治 |
| 5.23 [寿] ホトギス (1) 鳴き声 平岡考 | 5.29 [布佐平和台] ホトギス (1) 朝鳴き声 鈴木静治 |
| 5.24 [柏市南部] ツミ (1) 9:12、雄個体に抱卵を交代 飯泉仁 | 5.29 [高野山] ホトギス (1) 鳴き声・飛翔 平岡考 |
| 5.24 [つくし野3丁目] ホトギス (1) 5回ほど特徴的な声で鳴く 田中功 | 5.29 [手賀沼遊歩道] ヒクケ (1) 鳴き声 船津登 |
| 5.24 [北新田] ホトギス (1) 河川敷で鳴き声 中野久夫 | 5.31 [東中新宿] ホトギス (1) 7:53、自宅上空を鳴きながら通過 飯泉仁・飯泉久美子 |
| 5.24 [北新田] チョウゲンボウ (1) 牝 リンク 中野久夫 | 5.31 [北新田] ホトギス (1) 斜面林で鳴き声 中野久夫 |
| 5.24 [手賀新田] ヨシコイ (1) 飛んで来て中洲に入る(初認) 鈴木静治 | 6.02 [片山(手賀の丘公園)] 材木 (1) キョキョと鳴き枯木に止まる 船津登 |
| 5.25 [手賀新田] ヒ (1) 川の上空を飛ぶ 鈴木静治 | 6.03 [北新田] ホトギス (1) 河川敷で鳴き声 中野久夫 |
| 5.25 [布佐平和台] ホトギス (1) 夜鳴き声 鈴木静治 | 6.03 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声 中野久夫 |
| 5.25 [布瀬] ホトギス (1) 森より鳴き声 鈴木静治 | 6.03 [北新田] ヒ (1) 飛翔 中野久夫 |
| 5.25 [中峠] ホトギス (1) 朝、夕鳴く 松本勝英 | 6.04 [古戸] コシキリ (3) 葦にとまり囀る 鈴木静治 |
| 5.26 [布佐平和台] ホトギス (1) 朝鳴き声 鈴木静治 | 6.04 [鷲野谷新田] サバ (1) 電柱に止まる 船津登 |
| 5.26 [北新田] ヒ (1) 飛翔 中野久夫 | 6.04 [鷲野谷新田] ヒ (2) 上空を飛ぶ 船津登 |
| 5.27 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声 中野久夫 | 6.05 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声 中野久夫 |
| 5.27 [北新田] ヨシコイ (2) 休耕田で(初認) 中野久夫 | 6.06 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声 中野久夫 |
| 5.28 [布佐平和台] ホトギス (1) 夜鳴き声 鈴木静治 | 6.07 [発作] チョウゲンボウ (1) 木の頂きにとまる 鈴木静治 |
| 5.28 [北新田] ホトギス (1) 河川敷で鳴き声 中野久夫 | 6.07 [布佐平和台] ホトギス (1) 鳴き声が聞こえる 鈴木静治 |
| 5.28 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声 中野久夫 | 6.07 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声 中野久夫 |
| 5.28 [片山(手賀の丘公園)] 材木 (1) サシバを追いかける 船津登 | 6.08 [増尾1丁目] 牝 舩 (1) 14:50、農家の屋敷林で囀る 飯泉仁 |
| 5.28 [片山(手賀の丘公園)] サバ (1) 林の上空を飛ぶ 船津登 | 6.08 [柏市南部] ツミ (2) 15:44、雌雄各1 |

- 羽、餌を雄から雌にプレゼント 飯泉仁
6.08 [下沼田] フォウゲンボウ (1) 電柱にとまる 鈴木静治
6.08 [浅間前] フォウゲンボウ (1) ムドリ、ハシカラスよりヒツグされる 鈴木静治
6.08 [布佐平和台] ホトキス (1) 鳴き声が聞こえる 鈴木静治
6.08 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声 中野久夫
6.09 [柏市南部] ツミ (2) 9:50、雌雄が巣の番を交代 飯泉仁
6.09 [手賀新田] フォウゲンボウ (1) 電柱上より飛ぶ 鈴木静治
6.09 [北新田] カッコウ (1) 越流堤横柳上 中野久夫
6.09 [五條谷] ホトキス (1) 鳴きながら上空を西から東へ飛ぶ 船津登
6.09 [片山(手賀の丘公園)] 材カ (1) 枯れ木に止まる 船津登
6.09 [片山(手賀の丘公園)] ヒ (1) 上空を飛ぶ 船津登
6.09 [片山(手賀の丘公園)] ヒ ㍊ (2) さえずる 船津登
6.09 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ (1) NR 船津登
6.09 [片山(手賀の丘公園)] ホトキス (1) 上空からの鳴き声 船津登
6.10 [中峠(利根川ゆうゆう公園)] コシキリ NR 葦中で元気に鳴く 大久保陸夫
6.10 [中峠(利根川ゆうゆう公園)] カッコウ NR 鳴き声 大久保陸夫
6.10 [中峠(利根川ゆうゆう公園)] ホトキス NR 鳴き声 大久保陸夫
6.10 [下沼田] フォウゲンボウ (1) 電柱上にとまる 鈴木静治
6.10 [手賀新田] ヒ (1) 川の上空を飛ぶ 鈴木静治
6.10 [布瀬] ホトキス (1) 森より鳴き声 鈴木静治
6.10 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声 中野久夫
6.11 [北新田] カッコウ (1) 鳴きながら飛翔 中野久夫
6.12 [下沼田] フォウゲンボウ (1) 電線にとまる 鈴木静治
6.12 [北新田] カッコウ (1) 越流堤横柳上 中野久夫
6.13 [北新田] カッコウ (1) 鳴きながら飛翔 中野久夫
6.13 [五條谷] ホトキス (1) 鳴きながら上空を西から東へ飛ぶ 船津登
6.14 [柏市南部] ツミ (1) 9:42、雌個体が巣の中に 飯泉仁
6.14 [手賀新田] ホトキス (1) 森の方から鳴き声 鈴木静治
6.14 [布佐平和台] ホトキス (1) 鳴き声が聞こえる 鈴木静治
6.14 [北新田] カッコウ (1) 越流堤横柳上 中野久夫
6.14 [岡発戸新田] ヒ (1) 沼上空高く飛ぶ 鈴木静治・猪爪敏夫・船津登・間野吉幸・池田日出夫・金子雅幸
6.15 [柏市南部] ツミ (1) 9:01、雌個体が巣の中に 飯泉仁
6.15 [柏市南部] ツミ (1) 9:24、カラスを追尾し飛翔 飯泉仁
6.15 [発作] ホトキス (1) 14:00、小林方面から鳴き声 飯泉仁・飯泉久美子
6.15 [布瀬] ヒ (1) 14:30、北方向から出現し、上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
6.16 [北新田] カッコウ (2) 越流堤横柳上 中野久夫
6.16 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ (3) 船津登
6.16 [片山(手賀の丘公園)] ホトキス (1) 上空からの鳴き声 船津登
6.17 [布佐平和台] ホトキス (1) 鳴き声が聞こえる 鈴木静治
6.17 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声 中野久夫
6.18 [布瀬] ヤマガラ (1) 森より鳴き声 鈴木静治
6.18 [布瀬] ホトキス (1) 森より鳴き声 鈴木静治
6.18 [布瀬] ヒ ㍊ (1) 森より鳴き声 鈴木静治
6.18 [北新田] カッコウ (3) 河川敷柳上 中野久夫
6.19 [北新田] カッコウ (3) 河川敷柳上 中野久夫
6.19 [北新田] フォウゲンボウ (1) 電柱から飛去 中野久夫
6.20 [北新田] カッコウ (1) 越流堤横柳上 中野久夫

- 6.21 [東中新宿] ホトギス (1) 2:00、自宅南
方向から鳴き声 飯泉久美子
- 6.21 [柏市南部] ツミ (1) 9:10、雌が巣の中
で羽づくろい 飯泉仁
- 6.21 [柏市南部] ツミ (1) 9:53、雄が地面に
いたオカガの雛を捕獲し、雌にプレゼント
飯泉仁
- 6.21 [柏市南部] ツミ (1) 10:00、雌が杉を
嘴で折った後、巣に運搬 飯泉仁
- 6.22 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声
中野久夫
- 6.23 [手賀新田] ヒ (1) 川の上空を飛び、
電柱にとまる 鈴木静治
- 6.23 [北新田] カッコウ (1) 越流堤横柳上
中野久夫
- 6.23 [片山(手賀の丘公園)] ヒ (1) 上空
を飛ぶ 船津登
- 6.23 [片山(手賀の丘公園)] オカガ (1) キョ
キョと鳴き枯木に止まる 船津登
- 6.23 [片山(手賀の丘公園)] ヒ (1) 竹
林の奥でさえずる 船津登
- 6.23 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ (4)
船津登
- 6.24 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声
中野久夫
- 6.24 [北新田] ヨウケンボウ (2) 電柱から飛
去 中野久夫
- 6.25 [柏市南部] ツミ (1) 10:25、綿羽をま
とった幼鳥が姿を現した 飯泉仁
- 6.25 [柏市南部] ツミ (2) 11:10、雄からオ
カガの雛を受け取り、羽をむしりつつてか
ら巣に運搬 飯泉仁
- 6.25 [北新田] カッコウ (1) 越流堤横柳上
中野久夫
- 6.26 [北新田] カッコウ (1) 越流堤横柳上
中野久夫
- 6.26 [北新田] ヒ (1) 飛翔 中野久夫
- 6.26 [鷲野谷新田] サシバ (1) 電柱に止ま
る 船津登
- 6.30 [柏市南部] ツミ (1) 9:02、幼鳥が枝に
出現 飯泉仁
- 6.30 [柏市南部] ツミ (4) 9:18、成鳥雌 1 羽、
幼鳥 3 羽が巣とその周辺の姿を現した
飯泉仁
- 6.30 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声
中野久夫
- 6.30 [片山(手賀の丘公園)] オカガ (1) 枯木
に止まる 船津登
- 6.30 [片山(手賀の丘公園)] ヒ (1) 竹
林の奥でさえずる 船津登
- 6.30 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ (2)
船津登
- 7.03 [北新田] カッコウ (2) 越流堤横柳上
中野久夫
- 7.03 [岡発戸新田] ヒ (2) 上空高く滑空
鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出夫
・金子雅幸・蒲田知子・百瀬喬
- 7.06 [柏市南部] ツミ (2) 9:20、成鳥雌と幼
鳥が木の枝を折り、巣に運搬 飯泉仁
- 7.06 [柏市南部] ツミ (1) 9:40、幼鳥が木の
枝に飛来 飯泉仁
- 7.06 [布瀬新田] ホトギス (1) 15:25、林の
中で声 飯泉仁・飯泉久美子
- 7.06 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声
中野久夫
- 7.08 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声
中野久夫
- 7.11 [北新田] カッコウ (3) 越流堤付近飛翔、
樹上で交尾 中野久夫
- 7.11 [五條谷] ホトギス (1) 鳴き声
船津登
- 7.12 [柏市南部] ツミ (1) 9:04、成鳥雌が枝
に止まり周囲を警戒 飯泉仁
- 7.12 [北新田] ホトギス (1) 河川敷で鳴き
声 中野久夫
- 7.12 [北新田] カッコウ (2) 河川敷で鳴き声
中野久夫
- 7.13 [手賀沼辺] ヒ (2) 上沼 1, 下沼 1
染谷迪夫・木村 稔・田中 功
- 7.13 [北新田] カッコウ (2) 越流堤横柳上
中野久夫
- 7.14 [北新田] ホトギス (1) 河川敷で鳴き
声 中野久夫
- 7.14 [北新田] カッコウ (2) 河川敷柳上
中野久夫
- 7.15 [北新田] カッコウ (2) 越流堤横柳上
中野久夫
- 7.16 [柏市南部] ツミ (1) 15:00、成鳥雄が
枝に飛来 飯泉仁
- 7.16 [柏市南部] ツミ (1) 15:00 ~ 15:20、枝
に止まり、小鳥を解体 飯泉仁
- 7.16 [柏市南部] ツミ (1) 15:22、近くに
いたオカガを追尾 飯泉仁
- 7.16 [柏市南部] ツミ (1) 15:56、幼鳥が林

- の中を移動 飯泉仁
- 7.16 [北新田] カッコウ (1) 越流堤横柳上
中野久夫
- 7.17 [古戸] コシキリ (1) 薄の葉にとまり囀
る 鈴木静治
- 7.17 [古戸] ホトギス (1) 鳴き声が聞こえ
る 鈴木静治
- 7.17 [江蔵地] トビ (1) 河原上を飛ぶ
鈴木静治
- 7.17 [北新田] カッコウ (1) 鳴き声が聞こえ
る 鈴木静治
- 7.17 [北新田] トビ (1) 上空を飛ぶ
鈴木静治
- 7.17 [北新田] サバ (1) 木より飛び立つ
鈴木静治
- 7.17 [北新田] ホトギス (1) 鳴き声が聞こ
える 鈴木静治
- 7.17 [北新田] カッコウ (1) 越流堤横柳上
中野久夫
- 7.19 [北新田] カッコウ (2) 越流堤横柳上
中野久夫
- 7.19 [北新田] コシキリ (1) 休耕畑で囀り
中野久夫
- 7.20 [柏市南部] ツミ (1) 9:00、若鳥の鳴き
声 飯泉仁
- 7.20 [北新田] カッコウ (1) 河川敷柳上
中野久夫
- 7.20 [北新田] コシキリ (1) 休耕畑で囀り
中野久夫

今回寄せられた鳥の全種名

アオサギ、アマサギ、ウグイス、エナガ、オ
オタカ、オオバン、オオヨシキリ、オナガ、
カイツブリ、カッコウ、カルガモ、カワウ、
カワセミ、カワラヒワ、カンムリカイツブリ、

キジ、キジバト、キビタキ、キョウジョシギ、
ゴイサギ、コゲラ、コサギ、コチドリ、コブ
ハクチョウ、コヨシキリ、サシバ、シジュウ
カラ、スズガモ、スズメ、セグロセキレイ、
セッカ、ダイサギ、チュウサギ、チョウゲン
ボウ、ツバメ、ツミ、トビ、ハクセキレイ、
ハシブトガラス、ハシボソガラス、バン、ヒ
クイナ、ヒバリ、ヒヨドリ、フクロウ、ホオ
ジロ、ホトトギス、ムクドリ、ムナグロ、メ
ジロ、モズ、ヤマガラ、ヨシゴイ

計 53 種

< 番外種 >

アイガモ、アヒル、カワラバト、コジュケイ
今回の投稿者の総投稿件数

安野昌彦	39
飯泉仁	271
飯泉仁・飯泉久美子	82
飯泉久美子	1
大久保陸夫	8
鈴木静治	242
鈴木静治・船津登・間野吉幸 ・池田日出夫・金子雅幸・蒲田知子 ・百瀬喬	15
鈴木静治・猪爪敏夫・船津登 ・間野吉幸・池田日出夫・金子雅幸	14
染谷迪夫・田中功	9
染谷迪夫・田中功・木村稔	13
田中 功	4
中野久夫	60
平岡 考	3
船津 登	124
松本勝英	1
総計	886

< 浅井久 >

トピックス

6月27日(金)午後6時10分～NHK総合「首都圏ネットワーク」のコーナー「いっ
てみよう いってみたい」及び7月9日(水)午前11時05分～NHK総合「ひるま
えほっと」の両番組中で「鳥の街・我孫子」が大きく採り上げられました。

その中で、当会の探鳥風景が手賀沼を挟んで陸と舟からの2構成で紹介されました。
6月10日に事前取材、6月19日に本番の取材対応(約4時間)を致しました。
尚、鳥の博物館、友の会の鳥風同好会、内山さんのカービングが同時に紹介されました。
お陰で「鳥の街・我孫子」の大きなPRにつながりました。(事務局)

山階鳥類研究所からのお知らせ

第18回山階芳麿賞 特別賞を橘川次郎氏(オーストラリア・クインズランド大学名誉教授)、小西正一氏(アメリカ合衆国・カリフォルニア工科大学名誉教授)が受賞されました。両氏の受賞を記念した記念シンポジウムを下記の日程で開催します。

「鳥の研究はここまで進んだ～人は鳥から何を学べるか～」

【日時】平成26年9月23日(火・祝)13:00～16:15 開場12:00

【場所】有楽町朝日ホール 千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン11F

【参加費】無料 【申込み】不要

【コンビナ】(五十音順)

山岸哲(山階鳥類研究所名誉所長・兵庫県立コウノトリの郷公園園長)

渡辺茂(慶應義塾大学名誉教授)

【講演者】(五十音順)

内山博之(鹿児島大学大学院理工学研究所教授)

江崎保男(兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科教授)

岡ノ谷一夫(東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻生命環境科学系教授)

長谷川博(東邦大学名誉教授)

会からのお知らせ

<定例手賀沼探鳥会での運転者への100円支払いについて>

本年度定期総会の質疑の中で「定例探鳥会の車提供者に対し、提供料(謝金)を支払うべきではないか」との意見が会員から出されました。

関連する質疑応答の末、「本件は事務局で対処案を検討し、役員会に提案し決定する」ことで正式に了解されました。5月の役員会で決定し、更に7月の役員会で再確認されましたので、下記の通り会員の皆さんにお知らせ致します。

記

本年10月より、定例手賀沼探鳥会で自動車に同乗される会員は、100円をご負担頂き、運転者に車の提供料としてお渡し頂くようお願い致します。

尚、非会員及び子供については従来通り無料です。(事務局)

<お断り> 本号はab-yachoへの投稿が少なかったため会員便りは割愛しました。

ほーほーどり No.240 (2014年9～10月号)

発行 2014年9月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、古出洋子、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務所 〒270 1154 我孫子市白山3-8-16-104 間野方

連絡先 〒277 0005 柏市柏1001-5 野口隆也 Tel 04 7163 7898

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費2,000円(大学生・高校生1,000円、中学生以下500円、家族会員無料)